

家とまちなみ

VOL.2 NO.3 1981/8



和歌山県海草郡下津町塩津浦

第5号

5

特集

座談会〈街並みを考える〉

財団法人 住宅生産振興財団



■表紙写真解説

和歌山県海草郡下津町塩津浦

齊木崇人

(建築家・筑波大学)

塩津浦(シオヅウラ)。紀伊水道に面した入江和歌山市の南にある、漁村・港町である。

多くの漁村にみられる様に、山が海にせまり、微妙に変化する地形を読み取り、積み上げられた石積の基盤敷地に住宅は重なる。

等高線にそって走る水平の道に直交して、海への道が曲がりくねり、しかし明確な方向性を持ち、下っていく。

地盤は変成岩で、どこを掘っても板状の石が出る。この石材が、このまちなみをつなぐ、小さくて、かつ大きな要素である。石積、石張、石塀、石組の水路……それは住宅の中まで入る。石張の土間、台所、風呂も同じ、便所でも使う。

この石の演出が、組目状に走る道と住居単位をつなぐ、中間的空間を形成する。

内とも外ともつかないミチには、石張の階段から、共同井戸、雨水排水路、盆栽、植木、花、ときめ細やかな演出がなされ、子供達の遊び場、主婦、老人達の語らいの場となる。

この内とも外ともつかない中間領域に着目することこそ、まちなみ形成の重要な視点ではなからうか。

幅のせまい道は軒を借りることにより広く使え、道は住宅の狭さをおぎない、複合的な利用を可能とする。

もし、公私の両空間を明確にしたら、塩津のまちなみは存在しない。

この様な自然立地条件を逆に生かして、モノや人とつながり方に工夫がみられる「まちなみ」はやさしく、安心できる。

家とまちなみ 第5号目次

表紙写真解説

齊木崇人 …… 2

官業と民業の分野調整

北川博正 …… 3

座談会「街並みを考える」

司会 高橋 茂

板倉文雄・陣内秀信

齊木崇人・国吉直行

藤本昌也・蓑原 敬

関根伸夫・松井国夫

4

ミルトン・ケインズの住宅祭

宮脇 檀 …… 22

街並み研究

我が国における町並み研究の過去と現在 …… 板倉文雄 …… 26

「街なみ研究会」紹介

…………… 29

住まいの研究

住宅設計について …… 中原暢子 …… 30

調査報告

川島住宅祭の来場者 …… 里見建太郎 …… 35

財団日記

…………… 49

小濱常務逝去

小濱久八君を悼む …… 救仁郷 齊 …… 50

編輯後記

…………… 51